
東京藝術大学 環境報告書

2024



Tokyo University of the Arts
Environmental Report

2024



目次

1 学長挨拶	03
2 藝大SDGs	04
3 組織体制	05
4 施設概要	06
5 マテリアルバランス	08

1 学長挨拶

東京藝術大学は、SDGs推進活動の一環として環境負荷の低減及び自然環境の維持・保全に向けて取り組んでおり、本報告書は本学の環境活動の現状及び問題点や課題を広く公開し、本学の学生・教職員が、地域社会や企業とともに環境問題に継続的に取り組むことを目的として作成しています。

本学は、芸術の力で人の心を動かし、社会や地域に対して貢献すること、そしてウェルビーイング＝人々の生活をよりよくしていくことを目指して活動をしています。そのためには、私たちの日常の意識と行動を変えていく必要があります。そしてそれを継続的に行っていくためには、数値目標を義務的に達成するだけでなく、心の底から「そうしたい」「そうありたい」という気持ちがなければなりません。ひとりひとりが自分自身の目標として継続していくことが重要なのです。

SDGsの17のゴールには「芸術」という言葉はありません。しかし、人の心を動かすことは芸術の成せる技であり、すべての目標の達成プロセスには必ず芸術が接続しています。真ん中の部分がにじんでいる藝大SDGsのロゴのビジュアルには、多様で移ろいやすい人の心と、その心が動くことによって行動変容が促される、そういう意味が込められています。



東京藝術大学は今後も、環境改善をはじめとするSDGsの目標の達成に貢献できるよう、また貢献できる人材を育成できるよう、教職員、学生、地域の方々やステークホルダーのみなさんと共に、よりよい未来を築いていくための活動を継続して参ります。



令和6年12月

東京藝術大学長 日比野 克彦

2 藝大SDGs

本学は、環境負荷の低減及び自然環境の維持・保全に向け、SDGs推進室の元に環境系専門委員会を立ち上げ、継続的に取り組んでいます。以下は本学におけるSDGs（Sustainable Development Goals）への基本的な考え方です。



藝術は、ずっと前からSDGs。

そして、今こそ、

疑い、問い、変革する。

人を愛し、心を打ち、社会を動かす。

世界を幸福にするイノベーションとして。

- 東京藝術大学は、SDGs が掲げる社会変革に貢献します。
独創的な視点からイノベーション生み、人の心を動かす藝術の力によって
- 東京藝術大学は、社会との結びつきを強化します。
SDGs を共に目指すことで新たな連携の広がりを
- 東京藝術大学は、持続可能な大学を目指します。
学内の自然の“美”と多様性の“鮮やかさ”を守ることで
- 東京藝術大学は、藝術と社会の架け橋となる人材を育成します。
藝術によって社会課題の扉を開くことを目指して

SDGs が掲げる 17 の目標の中に、「芸術」の文字は、ひとつもありません。それは、17 の目標すべてに藝術が接続すべき必要と出番があるということ。

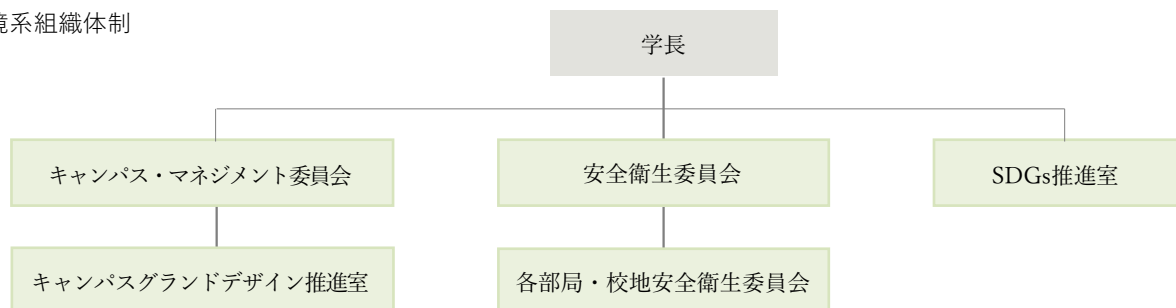
大量生産・大量消費・大量廃棄が引き起こす地球の悲鳴。そして貧困、差別、暴力による人間の悲鳴。すべてのアーティストたちは、遥か以前から、その悲鳴に心を向け作品を生み続けて来ました。ダヴィンチも、ベアトーヴェンも、ピカソも、シュパンも、黒澤明も、バンクシーも。

藝術活動は、人間が人間たる所以。そして人間はこの10年で、既存の価値観を大きく転換させなくてはなりません。

社会変革の種を“藝”える“術”を持つ東京藝術大学。「世界を変える創造の源泉」として、豊かで幸福、持続可能な社会を実現する役割を果たします。

3 組織体制

環境系組織体制



本学の組織体制

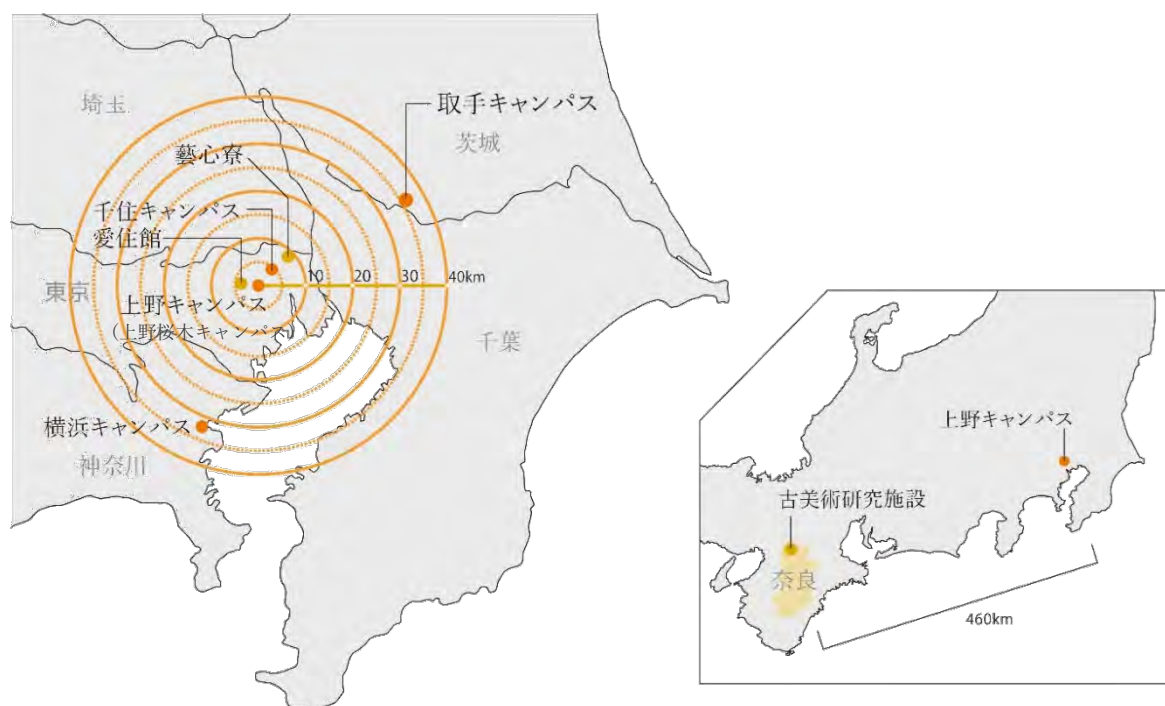


(令和6年4月時点)

4 施設概要

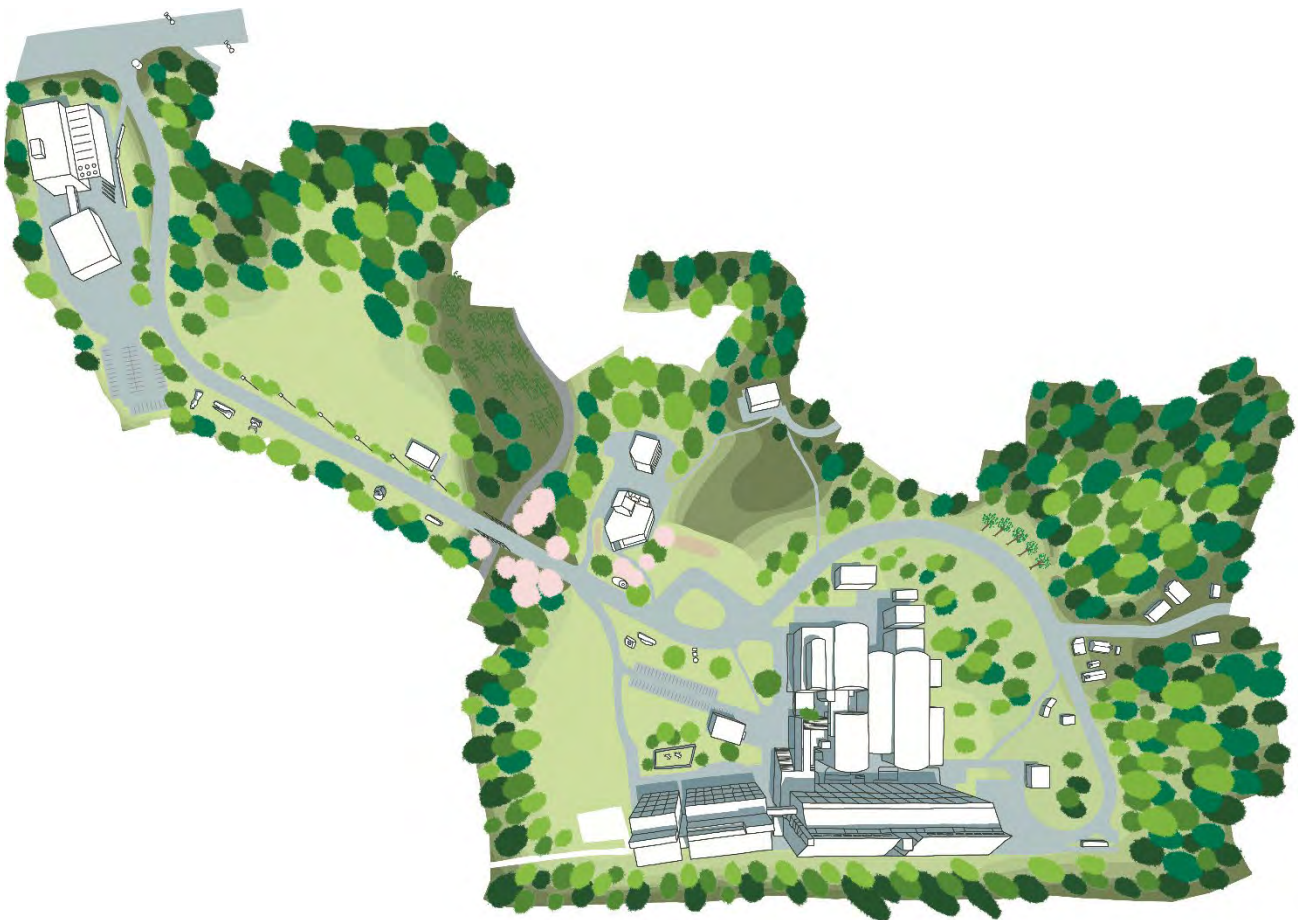
上野キャンパス [東京都台東区上野公園内]	美術学部 大学院美術研究科 音楽学部 大学院音楽研究科 大学院国際芸術創造研究科 各附属機関・センター等 事務局本部	在学者数 3,067 名 (89%) 教職員数 323 名 (77%) 敷地面積 69,365 m² (29%) 延床面積 98,189 m² (72%)
取手キャンパス [茨城県取手市]	美術学部 大学院美術研究科 各附属機関・センター等 取手事務室	在学者数 212 名 (6%) 教職員数 25 名 (6%) 敷地面積 164,095 m² (68%) 延床面積 20,341 m² (15%)
千住キャンパス [東京都足立区千住]	大学院音楽研究科 大学院国際芸術創造研究科	《 計 》 2 学部14 学科4 研究科
横浜キャンパス [神奈川県横浜市]	大学院映像研究科	在学者数 3,454 名 教職員数 419 名 敷地面積 242,222 m² 延床面積 135,654 m²
美術学部附属古美術研究施設 [奈良県奈良市]		
愛住館 [東京都新宿区]		藝心寮 (学生寮) は除く (令和6年5月時点)
上野桜木キャンパス [東京都台東区]		

4つのキャンパスと3つの附属施設の位置関係





上野キャンパス鳥瞰図



取手キャンパス鳥瞰図

5 マテリアルバランス

大学は、電気、ガス、水などのエネルギーや資源を消費しながら教育・研究活動を行っており、廃棄物や二酸化炭素の排出など、様々な形で環境へ負荷を与えています。

本学では、過去5カ年の推移を確認し、増減の原因等を分析しています。

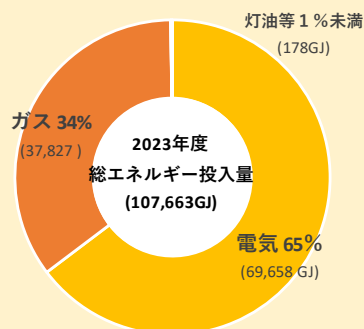
(主にエネルギーの使用の合理化等に関する法律に基づき報告した数値を採用しています。)

1 令和5(2023)年度のエネルギー・資源の消費と排出

エネルギー

- ・電気： 7,124,150kwh (69,658GJ)
- ・ガス： 722,165m³ (37,827GJ)
- ・灯油： 4,310L (159GJ)
- ・ガソリン： 350L (11GJ)
- ・軽油： 220L (8GJ)

総エネルギー投入量：107,663GJ



水

- ・上水： 34,807m³

input



output

温室効果ガス CO₂

- ・温室効果ガス：5,115 t-CO₂

排水

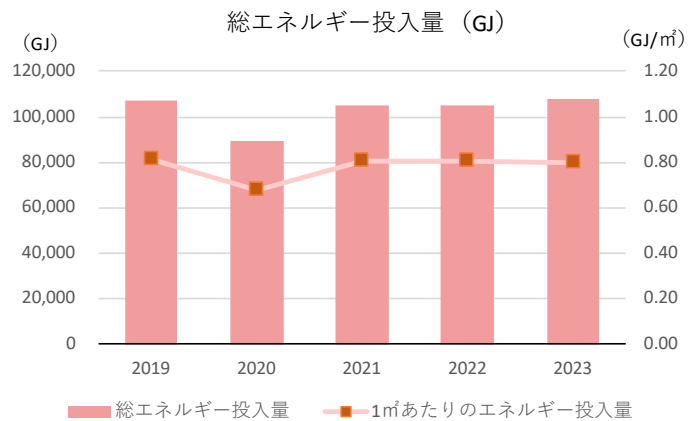
- ・下 水：25,838 m³

2 エネルギー・資源の消費と排出の推移

※令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染予防措置として入構禁止や遠隔授業を実施していたため、各エネルギーの使用量が少なくなっています。

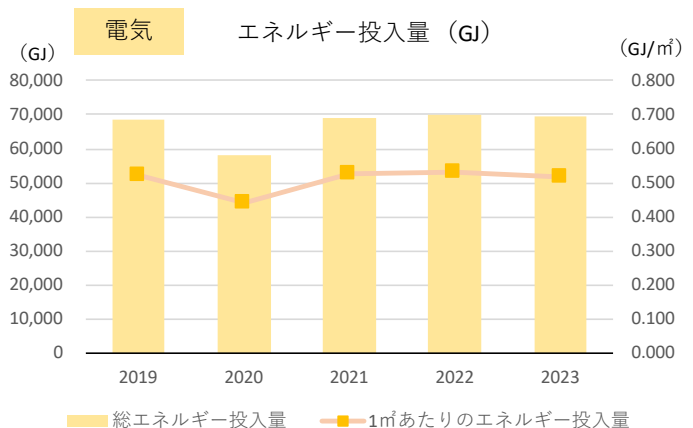
◆総エネルギー投入量

総エネルギー投入量は、107,663GJで、前年度比+2.2%の増となっています。2019年度比では+0.5%で、全体としてはほぼ横ばいと言えます。



◆電気使用量

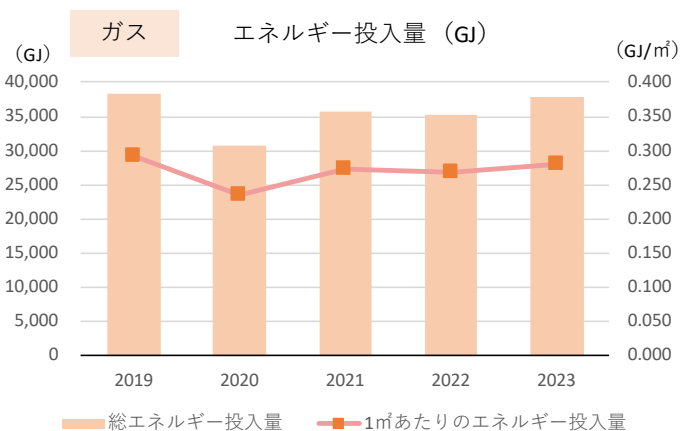
電気使用量は、7,124,150kwhで前年度比△0.4%の微減、2018年度比では+1.5%の増で、全体としてはほぼ横ばいと言えます。



◆ガス使用量

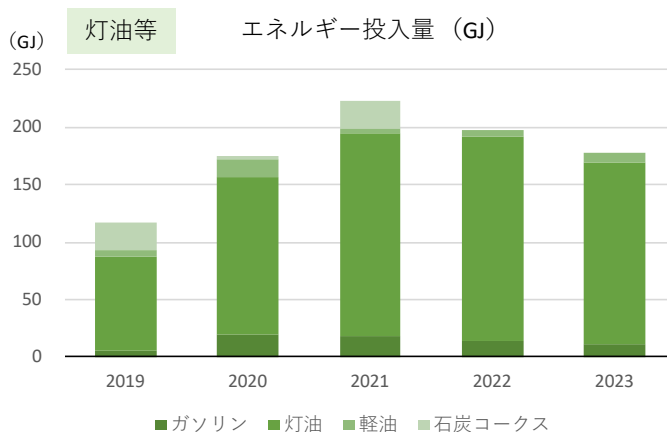
ガス使用量は、722,165m³で前年度比+7.4%の増、2018年度比では△5.0%の減となっています。

昨年度比で、電気使用量は差ほど変化がないのに比べ、ガス使用量のみが増えていることから、ガス空調機の使用が多かったことが伺えます。これは、7～9月の平均気温が昨年度比で+2.0℃以上高かったことが要因と考えられます。



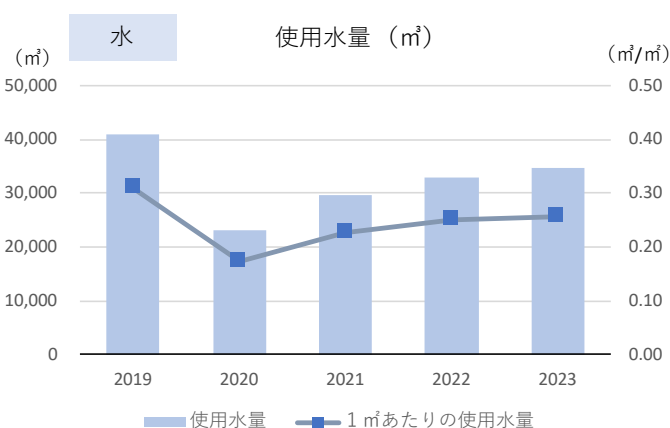
◆灯油等使用量

作業車両や重機、暖房器具等で使用されるガソリン、灯油、軽油、石炭コークスの使用量は、2018年以降増加していたものの、2021年をピークに減少傾向にあります。



◆水資源使用量

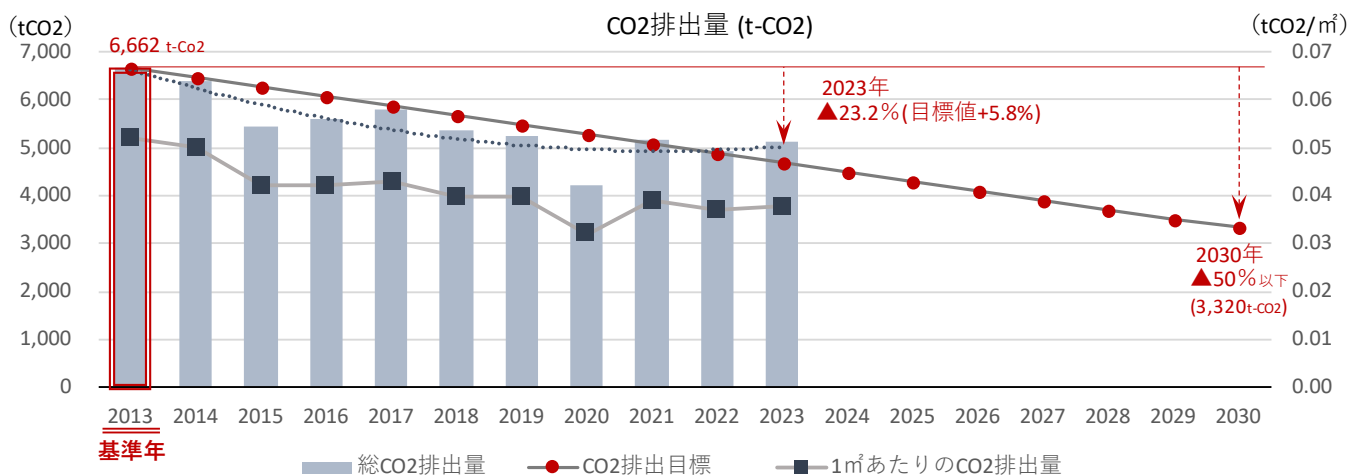
水資源使用量は、全体としては減少傾向にありますが、2023年度は34,807m³で前年度比+5.7%の増でした。2010年代よりは減少しているものの、近年増加傾向となっています。



◆温室効果ガス (CO₂) 排出量

昨今、CO₂ 排出量の削減が世界規模での課題となっていますが、本学でもCO₂ 排出量の抑制に努めています。

2023年度のCO₂排出量は、2030年目標・2013年度比50%削減のカーボンハーフ達成に向けた当年度目標値より、+5.8%多い5,115 t CO₂ でした。夏季の気温上昇に伴い空調設備を昨年度より稼働させたことが要因と推察されますが、引き続き省エネに向けた行動をとることが必要です。





東京藝術大学 環境報告書 2024

発行日：令和6年12月27日

企画・編集：

東京藝術大学キャンパスグランドデザイン推進室

東京藝術大学施設課

発行：国立大学法人 東京藝術大学

110- 8714 東京都台東区上野公園12-8

イラスト：島田智世

江原若菜（東京藝術大学 大学院 美術研究科デザイン専攻）

